

入院中におけるガン化学療法患者の栄養状態についての変化

溝畑秀隆^{*1), 2)} , 渡邊敏明²⁾

(¹⁾ 神戸松蔭女子学院大学 (前市立芦屋病院) , (²⁾ 兵庫県立大学)

【目的】ガン化学療法患者が医療機関に入院して食事をしているにもかかわらず、抗癌剤の副作用により入院中に低栄養障害 (Hospital Malnutrition) や味覚障害になることがいわれている。そこで、ガン化学療法患者を対象に栄養状態と味覚の変化を明らかにするために調査を実施した。

【対象者および試験方法】対象者は市立芦屋病院に入院し、多剤併用療法している患者 40 名 (男性 17 名, 女性 23 名) である。平均年齢は 61.36 ± 11.5 歳 (男性 63.1 歳, 女性 60.0 歳) である。化学療法患者の内訳は大腸癌 7 名, 悪性リンパ腫 6 名, 胃癌 6 名, 乳癌 6 名, 肺癌 6 名, 膵臓癌 4 名, 卵巣癌 2 名, 多発性骨髄癌 1 名, 胆のう癌 1 名, 白血病 1 名である。また味覚アンケート調査も実施した。調査は平成 16 年 7 月 ~ 平成 16 年 10 月に実施した。これらの患者について入院時, 入院中, 退院時に採血を行い, 栄養状態の指標である TP 量, Hb 値と生化学検査は RBC, AST, ALT, LDH, ALP, BUN 値を測定した。また必要に応じて栄養補助飲料 85 kcal / 日を与えた。

【結果および考察】入院患者の TP 量は入院時平均 6.7 g/dl, 入院中 6.4 g/dl, 退院時 6.4 g/dl と低値であった。とくに悪性リンパ腫は 5.9 g/dl, 5.4 g/dl, 5.7 g/dl であった。Hb 値は 9.1 g/dl, 8.9 g/dl, 8.6 g/dl であり, RBC 値は 313×10^4 個/ μ l, 296×10^4 個/ μ l, 286×10^4 個/ μ l であった。Hb 値, RBC 値は入院時から低値であった。他の生化学検査値は正常値内であった。このように入院中においては, 栄養状態が低下している可能性のあることが示される。また副作用の強い肺癌患者 7 名について, 入院中に栄養補助飲料を 1 ヶ月間与えたところ, AST は入院時 50 IU/l から 1 ヶ月後 22 IU/l, ALT は 91 から 29 IU/l, ALP は 365 から 296 IU/l, CRP は 3.3 mg/dl から 0.9 mg/dl と改善された。味覚については全体の 67% が変化し, とくに肺癌患者に高い傾向がみられた。以上の結果, 腫瘍別に症状に応じた食事の提供と微量栄養素も考慮にいれていくことが重要と考えられる。